



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年2月5日

第47号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

電話とスマホ

一月が終わると、二月は「にげる」と語呂合わせして「年度末で仕事が多いのに日も少ないし、過ぎるのが早い。」と嘆きます。学校も、みなさんのお仕事と同様、三月の大きな節目に向かって慌ただしさを増す時期です。

しかし、元旦に大きな地震に見舞われた能登地方の皆さんにとっては、「いつまでこの生活が続くのか。」と毎日を長く長く感じておられることでしょう。能登町と小林市の直線距離は約八百km。この距離をどう感じるかは、寄り添う気持ちによって変わるのでしょう。今、こうしている間も、冷たい避難所ではないかな進まない明日を迎えようとしている被災者の皆さんがいることを、いつも心にとめておきたいものです。そして、苦難の中でも前を向いている心の強さに敬意を払いたいと思います。

電話会社(当時は一社)に依頼すると、二つの電話機が線に教えていた「電話の話し方」

私の実家は山の斜面に立っており、一段下には一人のお年寄り暮らししていました。そのおばあちゃんあてに、うちの黒電話が鳴ることがありました。おばあちゃん家には、電話がなかったのです。今から五十年前、田舎だった私の周りでは電話は数件に一台。おばあちゃんを呼びに行くのは、幼い私の仕事でした。おばあちゃんが電話を掛けるときも、もちろんうちの電話を使います。だから、当時、電話機は玄関に置くもの。そのわきには小さい小さな貯金箱が置いてありました。電話が終わると、使用料として十円玉をその中に入れるのです。それから時がたち、三十年前。私は一年生を受け持つていました。当時、一年生には、「電話の話し方」という学習がありました。若いお父さん、お母さんは、そんな授業を受けた経験がないかもしれませんねえ。

頼ると、二つの電話機が線に教えていた「電話の話し方」をもってきてくださいました。教室でも本物の電話機のスマホを持つていたのを見せました。ジュラルミンのケースに入っていたのを覚えていました。もし、もし。〇〇さんのお私ども中高年です。もう、お分かりだと思いがすが、今の学生は、社会人として必要な電話のかけ方、受けるべきか。友だちの△△です。〇〇さん、これは、いまですか。これが、当時、一年生に指導していた電話をかけるときの就職活動さえメールでのやりとり。就職しても怖くて電話が取れないそうです。今は、機能に任せて名乗らない人も多い。「今、大丈夫？」と聞いてくれる人は、まだマナーを心得ている人です。いくら便利になっても、まだ電話は存在しています。見えない、だれか分からない、何をしたいのか分からない、何を伝える。大人がきちんと手本を示したいものです。

前。私は一年生を受け持つていました。当時、一年生には、「電話の話し方」という学習がありました。若いお父さん、お母さんは、そんな授業を受けた経験がないかもしれませんねえ。

データに誘いたい相手にたどり着くにも、電話に出る親御さんの壁を越えなければならぬ。というドキドキする場面が、ドラマや漫画でよく取り上げられたものです。

虫歯治療のすすめ

聞けば歯医者さんでは、今予約しても数か月先のこともあるとか。でも、その数か月間にも症状は進み、痛くなってからでは治療も出費も負担が大きくなるばかりです。歯の健康は全身の健康。後悔する前に思い切って親子で歯医者受診を始めてみてはいかがでしょうか。

新聞報道もありましたが

まちづくり協議会の協力により

南小学校と一緒にスクールコンサートが開かれました。(令和6年1月18日)



全国で活躍する
専修大学附属玉名高校
マーチングバンド「ベンチャーズ」

子どもたちも、同行した大人も
迫力ある演奏と
魅せるステージに感動しました。

子どもたちにも
大きな刺激を与えたことでしょう。



「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」